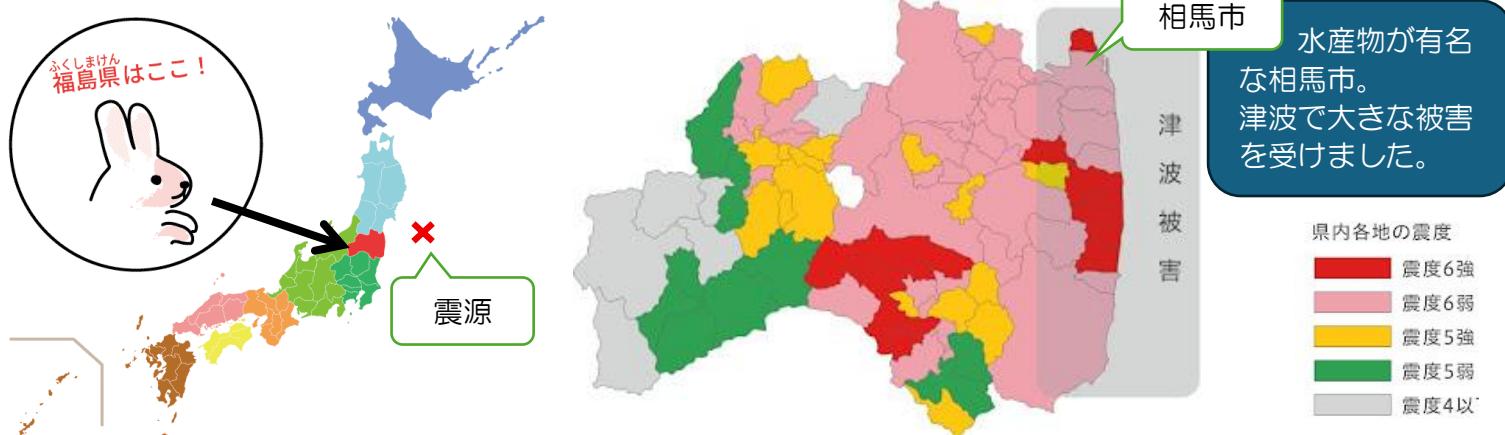


相馬市

(防災備蓄倉庫・相馬双葉漁協・慰靈碑・鎮魂記念館)

東日本大震災（2022.3.11）の福島県の被害状況



相馬双葉漁協

この漁港は震災の際に一度津波に流されてしまいましたがその後復興し、今も実際に使われています。

ここでは魚の加工やせりなども行われています。震災当時の流されていく漁港の映像を見た後に、実際にその場所に行ってみると、こんな高さにまで津波が押し寄せてきたことにびっくりしました。



慰靈碑



相馬双葉漁協のすぐ近くに震災で亡くなってしまった方々を弔うために建てられた慰靈碑がありました。とても多くの人たちの名前が刻まれていてとても悲しい気持ちになりました。慰靈碑では嘉手納高校の生徒全員で折った千羽鶴を供えた後、研修生みんなで黙祷しました。

鎮魂記念館

慰靈碑のすぐ隣にある鎮魂記念館で、当時の震災のビデオを見た後、語り部の五十嵐ひで子さんによる講話を聴きました。五十嵐さんは震災当日、揺れを確認した後に、波の様子を見て大丈夫だと判断してしまい、その後来た津波によって五十嵐さん家族3人が流れてしまい、一緒にいた夫と叔父が亡くなってしまいました。



強い後悔と鬱いながら語り部になることを決めた五十嵐さんはあの日の出来事を風化させないため、ツアーや研修旅行に来る人たちに当時の出来事を話しています。

相馬市防災備蓄倉庫

倉庫には高さ5メートルほどの移動式の棚があり、災害時に全市民が数日間必要とされる量の飲料水や食料品、毛布などが備蓄されていました。



また、他県の市町村と連携し、災害時に物資を送れる体制が整えられていました。



浜焼き体験

震災前、松川浦周辺の宿の店頭で行われていた「浜焼き」を体験しました。浜焼きではや力レイやイカに塩をかけ、串が焦げないように伝統的な踊り串という方法を使って焼き上げました。どちらもびっくりするくらい美味しいかったです。



備蓄倉庫の隣には災害時、避難誘導などを行い、殉職してしまった10名の消防団員の方たちの名前が彫られた、慰靈碑がありました。

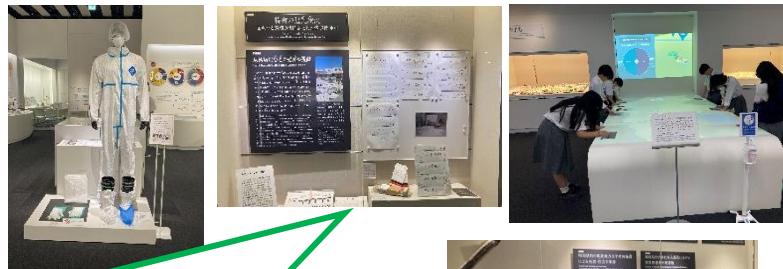


東日本大震災・原子力災害伝承館・請戸小学校・大平山靈園



東日本大震災・原子力災害伝承館

～今も続く未曾有の複合災害を伝える被災地の伝承拠点～



東日本大震災原発伝承館では、震災が起きた3月11日のタイムカードや、水圧で曲がったポール、郵便ポストなどが展示されていて、当時の様子がよくわかりました。また、日本中から送られた支援物資も展示されていて、人々が助け合っていたことにも感動しました。さらに、原発の影響で今も住めない地域があり、元々住んでいた場所に戻れない人がいることを知って、震災のときも今も、多くの人がとても辛い思いをしていることが伝わってきました。



双葉高校
震災当時のまま
になっている。
3日後(3/14)の
合格発表に向
け準備がされて
いた様子。

請戸小学校

～全員が無事避難することができた奇跡の学校～



海から約300mに位置する請戸小学校。震災発生時刻、校舎には2~6年生までの児童82人が残っていました。教職員はすぐに児童に対し避難を促し、避難場所に指定されている学校から約1.5km離れた大平山を目指しました。地震発生から約40分後に請戸小学校は津波の被害に遭いました。



大平山靈園

～津波から児童たちを救った奇跡の山～

津波などで亡くなられた方々の名前が刻まれた慰靈碑と墓地があります。



請戸小学校の児童・教職員
が避難したルート

たくさんの生徒がいる中で、先生方が落ち着いて判断し、生徒全員を安全に避難させることができたのは本当にすごいと思いました。生徒たちの命も先生方自身の命を守ることができたことに、感動しました。

また、簡単には変形しないはずの時計が変形したり、水圧によって体育館の床が抜けてしまったりする様子を見て東日本大震災の恐ろしさを改めて実感しました。

請戸小学校を見学して、私は災害が起きたときに落ち着いて判断し、行動できるようになりたいと思いました。

双葉町役場・ふたばプロジェクトとの対話

福島県双葉町とは・・・



双葉町は福島県浜通り地方のほぼ中央にあたり、双葉郡の北東部に位置しています。比較的温暖な気候が特徴で、東北地方にありながら冬は積雪が少なく、とても住みやすい自然環境に恵まれています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により福島第一原子力発電所において爆発事故が発生し、双葉町は帰還困難区域と避難指示解除準備区域に指定されました。全国へ避難した町民は未だ先の見えない避難生活を強いられています。



ふたばプロジェクトとは・・・

平成31年3月5日に設立された福島県双葉郡双葉町のまちづくり会社です。民間と行政の協働による、町民主体の魅力あるまちづくりを行っています。



今回お話を聞いた
小泉良空さん



いろいろな活動を行っています。ぜひインスタをフォローして応援してね♪

futaba.project.0305

ふたばプロジェクトインスタグラム

双葉町と嘉手納町の共通点



どちらも、町の8割が「住民が住めない地域」。残りの2割の地域での生活を強いられている。

双葉町の様子や対話を通して感じたこと・考えたこと

双葉町は、福島原発事故の影響で、現在も震災当時の状態で放置された家屋や土地の荒廃が見られました。しかし、整備された駅前にはAEONがオープンしたり、ふたばプロジェクトの企画した祭りなどの行事を通じて、人々が集まる環境を創出しているなど、私たちが想像していた以上に、元気を取り戻している様子が見られました。



ふたばプロジェクトの小泉さんの話を聞いて、双葉町の約8割が今も人の住めない区域になっている状況が、嘉手納町の約8割が米軍基地によって占められている現状と、とても似ているように感じました。

嘉手納町は基地がある町として、基地と共に存していくためのまちづくり、または、基地がなくなってしまった場合でも安定して成長できるよう、米軍基地に頼らないまちづくりが重要だと改めて思いました。



ふたば未来学園高等学校との交流会



和太鼓を披露してくれました



福島県立ふたば未来学園高等学校とは・・・

双葉郡の学校教育の復興を目指して2015年に創設された中高一貫の県立校。

嘉手納高校と同じ総合学科です。「アカデミック系列」・「トップアスリート系列」・「スペシャリスト系列」3つの系列の科目群があります。

ふたば未来学園高等学校との交流会では、お互いの地域や学校の紹介を行いました。生徒達の取り組みなどについて話を聞き、特に印象に残っているのが校内のカフェです。生徒さん達が営業をしていると聞き、学校で自分たちの好きな事を活かしながらお金の回り方や使い方を学べるので、将来にも役に立つ良い経験だと感じました。嘉手納高校でもビジネス系列の生徒達が定期的に仕入販売をしているので、そういった面での共通点があるなと思いました。



ハイタイ
三線を披露しました

事後学習(比謝川の里との合同避難訓練)

比謝川の里関連施設との合同避難訓練

目的：

- (1) SDGs 福島研修で学んだ知識や経験を活かし、嘉手納町の避難訓練ボランティアとして参加し、地域に還元する機会とする。
- (2) 高齢者とともに避難することで、避難時に感じたことや課題について事業所と共有し、ともに災害時の備えについて協議することができる。

日時：令和7年11月5日（水）10:00～11:00

協力事業所：さわやかホーム比謝川の里《認知症対応型》
比謝川の里小規模多機能ホーム



福島研修での学びを活かし介護施設の方々と合同で避難訓練をしました。

施設の方からの事前説明の中で、地震や津波が起きた時、最悪の場合は、介護施設におじいちゃんやおばあちゃんを置いて行かなければならないこともあると聞き、とても苦しく、悲しい気持ちになりました。

実際に避難場所として指定された「イユミーバンタ（高台：標高30m）」まで車椅子を押して行ったところ、段差や坂道が多く、指定された避難場所に到着するのに15分も掛かりました。避難時間の目安は5分以内だったため、10分間も差があり、実際に津波が来ていたら飲み込まれてしまうスピードでした。

車いすに乗った高齢者の方を1人で押すのは難しく、坂を登る時には男性1人に対し2人が付いて介助していたため、女性や力がない人は簡単に出来ることではないと分かりました。

また、避難経路が海沿いのため、津波の被害にあうリスクがとても高くなると予想されました。避難場所を隣のアパートや近くの高い建物などに変更したり道の凹凸を埋めるなどの工夫が必要になってくると思います。



今後の展望

- ①社会福祉法人 幸仁会 比謝川の里の避難訓練に今後も参加
- ②防災訓練での避難場所を嘉手納基地にできないか
提案先⇒三市町連絡協議会
嘉手納町役場など